

キャパシタハイブリッド型鉛蓄電池「ウルトラバッテリー」、 電気化学会「技術賞・棚橋賞」受賞

"Development of the UltraBattery" Won
2009 Technical Award of the Electrochemical Society of Japan

この度当社は、キャパシタハイブリッド型鉛蓄電池「ウルトラバッテリー」の開発に関する業績により、技術開発本部の三名と豪州連邦科学産業研究機構（CSIRO）のラム博士が2009年度電気化学会「技術賞・棚橋賞」を受賞し、京都大学吉田キャンパスで開催された第76回電気化学会大会において、電気化学会の太田健一郎会長から受賞者全員に賞状と副賞の銀杯が授与されました。当社は、今年の「論文賞」に続き、二年連続の受賞です。

「技術賞・棚橋賞」は学会賞・武井賞や進歩賞・佐野賞と並び、電気化学会で最も歴史と権威ある賞の一つであり、これまでにニッケル水素電池やリチウムイオン電池を開発した国内有力企業が受賞者に名を連ねています。

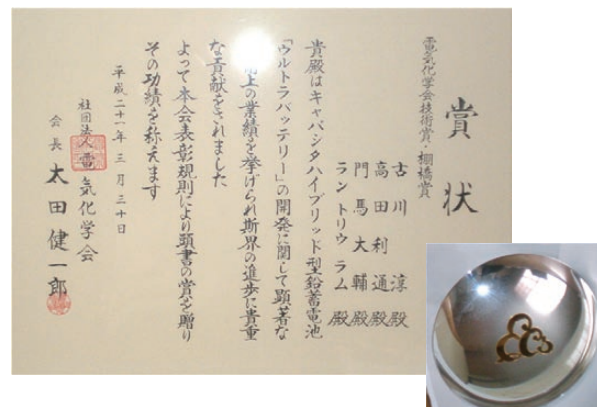
「ウルトラバッテリー」は鉛蓄電池と非対称キャパシタを電極レベルで一体化したハイブリッド型鉛蓄電池です。特に、先進鉛蓄電池組合（ALABC）によるホンダ・インサイト実車プロジェクトでは、144VのNiMH電池パックをウルトラバッテリーに置き換え、テストコースで一年以上に亘る実車耐久試験を行い、目標の10万マイル（16万km）を走破しました。これは鉛蓄電池としては驚異的な記録です。この結果は国内外で注目を集め、「温故知新の技術」としてテレビや新聞でも大きく取り上げられました。

受賞者のプロフィールは、今年の電気化学会誌7月号の「電気化学会各賞表彰」に掲載されています。

(技術開発本部 古川 淳)



電気化学会・太田会長から賞状を授与される筆者



技術賞・棚橋賞賞状と副賞の銀杯



ALABCの実車プロジェクトに用いられた
制御弁式ウルトラバッテリー